

10月25日（金）

おはようございます。

私は二日間、高校二年生の修学旅行の視察に行つて参りましたので、そのお話をしたいと思ひます。

ロイヤルホテル沖縄残波岬というところで、お昼にカレーを食べました。その時にホテルのスタッフの方が一人出て来られまして、「私は実は、昭和61年度の清風の卒業生で、森と申します」とおっしゃいました。

それで、詳しくお話を聞きますと、政先生と植田先生に担任をしてもらったそうです。清風に在籍中はあまり勉強をしなかったようですが、奈良の私立大学に入学、そこを卒業後、パナソニックの子会社へ就職された。そこで二年間働き、自分に合っていない職場だと感じたので、思い切って転職した。大和ロイヤルホテルの試験を受けて、再就職をした。最初の赴任地は橿原のロイヤルホテルであり、そのあと長く九州にお勤めになり、五年前に沖縄に赴任されたのだそうです。

お話を聞いていますと、沖縄に赴任して、この四月から総支配人になられ、現在200人の従業員と、一日で1600人のお客様をお世話しているということでした。

一通りお話されていったん仕事に戻られたのですが、再び私のところにこられまして、「どうしても言っておかねばならないことがある」とおっしゃいました。それは「これまで自分は、清風出身であるということで非常に助けられた。」ということでした。

どういうことですかと尋ねましたら、仕事で、ある交渉をしていた際に、話がなかなかうまくまとまらず、時間だけが過ぎていくという状態の中で、コーヒブレイクをして、交渉先の方と雑談をしているときに、「出身は関西のどこですか」と聞かれました。「私は奈良県の出身で、高校は大阪の清風高校です」と答えたところ、その方も「おれも清風だよ」ということになりました。そのことがきっかけとなって、まとまらなかつた交渉がうまくいったということでした。

これまでも、清風ということで、諸先輩方に助けていただいたことがあり、また逆に、交渉先の方が後輩だとわかつて助けたことが、幾度もあったそうです。そういうわけで、「自分は清風に助けられてここまでやってこられた」ということなのでした。

清風の卒業生には、大谷亮平という俳優がいるとか、国会議員の谷川とむという人もいるという話をしましたところ、そのすべてをご存じでした。この方は、本当に清風が好きなのだろうと思ひまし

た。私は修学旅行に行くまで、そのような方が沖縄にいることは知りませんでした。

このようにとてもいいお話をして下さいましたので、食事の最後の方で生徒らに、ここの総支配人で諸君の先輩にあたる方だと紹介をして、一言お話をさせていただきました。森先輩は、

「清風に在籍しているということの値打ちは、在籍している間はまだわからないだろうけれども、卒業したあとに、有形無形の恩恵があることに気づくだろうと思います。多くの卒業生があらゆるネットワークを通じて助けってくれたり、自分も助けたりしています。清風に在籍しているということが本当に有難く、素晴らしいことであるというのは、今はまだわからないかもしれませんが、卒業すれば、必ずわかる日がくるでしょう。」

と、お話してくださいました。

清風を卒業した先輩たちが、社会の中でお互いに助け合いながら活躍していることをたいへんうれしく、また頼もしく思いましたので紹介しました。希望の中に幸福を見出すというのが福の神の生き方ですが、社会での活躍に欠かせない希望が、清風の卒業生同士の支えあいのなかに見てとれたことに感動いたしました。諸君たちもうまくいかないとき、お互いの希望を支えられる友となり、精進努力して行ってください。

今朝の話はこれで終わります。

学校長